

英語科学習指導カード

Class 2 No. 20 Name B 子

題材名	Lesson 8 Africa		配当時間	10時間
目標	(1) 資源、音楽、美術、コンピュータなどの話を通してフリカ大陸について学ばせ、社会科学の学習とも関連させて、世界各地への視野を広げさせる。 (2) 次の文型を理解し、表現できるようにさせる。 ・ ST + TO + C (名詞), ・ It + is + 形容詞 + to + 不定詞 (3) 関係代名詞 whose, which (目的格) の用法を理解させる。			
Y-G 性格検査	C (社会的適応消極型)		教研式	4
・ 情意 (態度・興味・関心)	力がある割合には、常に多少おどおどとした態度が見られ、質問にやってくる時も、一人で来ることがなく、友人と一緒に場合が多い。授業中、自信を持って発言し、質問など出来るようにしてきた。英語を書くことに特に興味がある。			
・ アンケート	ので、Cコースの自由作文に挑戦させた。			
・ 作文	A B C (まじめに全問題をやリ、間違いは非常に少ない)			
「学習のめあて」の評価	A B C (まじめに全問題をやリ、間違いは非非常に少ない)			
領域別学習目標と所見	項目	評価	所見	
H	・ Tor F テスト	A B C	・ 早くやり、全部正解であった。 ・ Q and A は毎回全部正解であるが、時として簡単なところだけしくじることがあり、	
	・ 絵を使った自由表現	A B C	・ D とよく聞かなくて読む傾向がある。 ・ 暗唱などよくやり、予習と定めにやってくる。	
S	・ 発音・インネンエツェ	A B C	・ 単語・連語は正確に覚えた。 ・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
	・ 音読	A B C	・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
R	・ 内容把握	A B C	・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
	・ 暗唱	A B C	・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
W	・ 単語・連語	A B C	・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
	・ 絵を使った自由作文	A B C	・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
W	・ 自由作文	A B C	・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
	・ 自由作文	A B C	・ 自由作文は Part 1 において、場面と手をつなぐことが出来た。	
指導事項	総合評価	A B C	内容把握が十分なことで、重要文の暗唱しているのが Tor F テスト、Q and A など正確である。関連いも読めないところの所見として、出来た時には賞賛とよめるようにした結果、人前でおどおど、落着いて発表が出来るようになった。コーズも、自分のカラー一段階下げる傾向があったが、思い切って挑戦する勇氣が出てきた。	

微候観察の記録

Class 2 No. 20 Name B 子

月日	項目	内容	各
4/20	全体的な傾向	・ 4月転入。 ・ 授業中や、その他の機会をとりて声とかけると、うれしそうな表情をするが、すぐ頬を赤らめる。態度もおどおどしている。	
8/27	不定詞の形容詞用法	・ 質問に来る勇氣が出てきた。たにし、友人と二人でくる。 I want to eat something. と I want something to eat. の違いについて	
9/3	過去分詞の形容詞用法	・ 質問にこら。前回と同じく佐野洋子ととむに。 Do you have any pictures (taken) in Kyoto? など taken がのり。	
10/20	関係代名詞	・ 佐野洋子と質問にこら。 「Mary は、フランス製のバッグをくれたました。」を英文で書く場合、次の書き方でよいのかどうか。 Mary was given a bag made in France. Mary was given a bag which was made in France. (that)	
11/26	前置詞不定詞受動態	・ 一人で質問に来た。 ・ on と in の使い分けについて ・ I have no pencils to write with. の意味について ・ Ben showed her the way. を受動態にするとどうなるか。	